

～「エネルギー・環境」という視点から～

趣旨

- ICTによるエネルギー・環境改善への寄与は「見える化」にある。
- 地球環境問題では地球の全体的な温暖化でなく、局所的な変動や影響、食料の分配がより深刻。

日常生活や企業活動の効果の環境改善への見える化と
「喜んで」費用負担を行う社会的価値観を涵養する。

※ただし、見せる情報によっては夢ではなく、悪夢で脅迫されることになるかもしれないが・・

テーマ

- 日常生活の中での「環境に良いこと」の行為が世の中にどのように貢献できるか。
また、それがその人が過去どれだけたまったかが見える「環境貯金」または「環境万歩計」。

※ただし、間接効果によっては必ずしもすべて「善」とはならないことにも注意。

また、ひとつの行動があらゆる点で環境改善につながるとは限らない点に難しさがある。

バランスを取るにはどうすればよいのかが論点となる。

- 炭素排出権が導入された場合、日常生活での行為一つ一つに課金されることになる。
究極の個人別排出権のCap and Trade。

～異なる視点から～

- 交通システム、特に郊外・農村での交通システムのICT活用は、運転免許を持たない高齢者・子供に対して有効になる。

テーマ

きめ細かくオンデマンドで呼び出し、目的地まで効率的に最適に運行されるコンピュータ
「電子金斗雲」システム。